

エクルーシス試薬 FT4Ⅲの基礎的検討

◎河本 友美¹⁾、廣川 恵子¹⁾、繁 正志¹⁾、久保田 芽里¹⁾
大阪医科大学附属病院¹⁾

【はじめに】遊離型サイロキシン(FT4)は、甲状腺疾患の診断、治療効果の判定ならびに経過観察において重要な項目である。また、診察前検査として正確かつ迅速な結果報告が求められている。今回我々は、従来試薬の後継試薬として発売され、異好性抗体の影響を低減したエクルーシス試薬 FT4Ⅲへの切り替えに伴い、基礎的検討を行ったので報告する。

【対象および方法】対象は、当院検査部に測定依頼された患者残血清および、2濃度の専用コントロールを用いた。測定装置はcobas,e602(ロシュ・ダイアグノスティックス社)、試薬はエクルーシス試薬 FT4Ⅲ(以下改良試薬)、比較対象としてエクルーシス試薬 FT4Ⅱ(以下従来試薬)、(共にロシュ・ダイアグノスティックス社)を用いて基礎的検討を行った。

【結果】1) 同時再現性：3濃度の患者検体(n=10)を用いて検討した結果、CVは0.97～1.51%であった。

2) 日差再現性：2濃度の専用コントロール(n=10)を用いて検討した結果、CVは0.88～1.76%であった。

3) 実効感度：低濃度試料15例を5日間測定後、precision profileを作成し、CV10%以下となる濃度を実効感度として求めた。

4) 相関：従来試薬と改良試薬との相関(n=50)は $y=0.98x-0.007$ 、 $r=0.99$ であった。

5) 乖離例の検索：当院FT4基準値上限(1.70ng/dL)以上の検体を従来試薬と改良試薬で測定した結果、従来試薬で3.85ng/dL、改良試薬で1.20ng/dLと乖離した検体が1例認められた。精査の結果、従来試薬において偽高値を示していたことが確認された。

【まとめ】エクルーシス試薬 FT4Ⅲの基礎的検討は良好な結果が得られた。改良試薬は、従来試薬よりも自己抗体などの影響を回避でき、日常検査に有用であると思われる。

連絡先：072-683-1221(内線 3305)